

# つくば だより

2026年  
3月号



特集 チャレンジアートフェスティバルinつくば



**福祉型児童入所施設  
施設長 引田 紘介**



日差しのぬくもりに春の気配が感じられる季節となりました。子どもたちの笑顔にも、どこか軽やかな変化が見える3月。卒業や進級を迎える節目の月でもあり、一人ひとりの成長を、職員一同うれしく感じております。

日頃より、児童入所施設の運営に温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。皆さまのお力添えがあってこそ、子どもたちが安心して過ごせる環境を守り続けることができています。今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

さて、最近の施設の様子ですが、小学校を卒業した子どもたちは、新しい制服に身を包み、キラキラとした笑顔で卒業式へ向かいました。開所したばかりの頃、すたーと（児童発達支援）で過ごしていた子どもたちが、今では立派に制服を着るようになり、時の流れの早さと成長の喜びを改めて感じています。

中学部を卒業した子どもたちは受験を乗り越え、高等部へ進学します。高等部を卒業した子どもは就職し、グループホームでの新しい生活をスタートさせます。それぞれが自分の道を歩み始める姿は、私たちにとって何よりの喜びです。

障害児入所施設は、原則として18歳までのお子様が利用できる施設です。高校卒業の時期を迎える際に、より多くの選択肢を持てるよう、これからも一人ひとりの未来を見据えた支援に丁寧に向き合っていきたいと考えています。

新年度も新たな気持ちで、子どもたちも職員も「楽しむこと」を大切にしながら、事業運営に取り組んでまいります。これからも温かく見守っていただければ幸いです。新年度もどうぞよろしくお願いいたします。

## 児童発達支援事業所 すたーと

児童発達支援事業所すたーとは、令和元年7月1日の開所以来、地域の皆様に支えていただきながら運営を続けてまいりましたが、令和8年3月31日をもって事業を終了することとなりました。

開所当初は利用者も少なく、1人、2人と静かな日々が続いたことを懐かしく思い出します。その後は児童入所施設の未就学児童の皆さんと一緒に活動する機会も増え、地域の方々にもすたーとの存在を知っていただき、少しずつ賑やかな場所になっていきました。

6年9か月の間に、19名のお子様がすたーとに通所してくださいました。関わらせていただいた期間はそれぞれ異なりますが、どのお子様との時間も濃く、かけがえのない思い出です。職員一同、利用して下さった全てのお子様に、我が子のような愛情とたくさんの思い出があります。またどこかでお会える日を楽しみにしております。

長いようであっという間だった6年9か月、たくさんの出会いと、大切な幼児期に関わらせていただいたことに心より感謝申し上げます。至らない点も多く、ご迷惑をおかけしたこともあったかと思いますが、数ある児童発達支援事業所の中からすたーとを選び、ご利用いただきましたこと、深く御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。



3月18日、お別れ会を開催しました。みんなで貼り絵の「子どもの樹」を作り、午後はケーキ作りに挑戦。職員はしみりする場面もありましたが、子どもたちは笑顔で元気に楽しんでいました。

# チャレンジアートフェスティバルinつくば

3月7日（土）につくばカピオホールにて、  
チャレンジアートフェスティバルinつくばの舞台発表が開催されました。  
障害児入所施設筑峯学園は、劇の発表を行いました。





## イチゴ姫とわがままな小人

今回の創作劇「イチゴ姫とわがままな小人」では、子どもたちが姫をはじめとしたさまざまな役に挑戦しました。最初は自信が持てなかったり、恥ずかしさから思うように演じられなかったりする姿も見られましたが、練習を重ねるうちに一人ひとりの頑張りがしっかりと表れるようになりました。

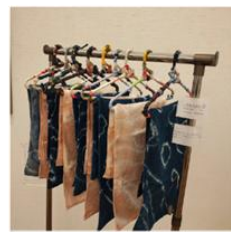
本番では、急ぎょ出演することになった児童もいましたが、どの子ども練習以上の力を発揮し、舞台上に臨む姿に驚きと感動があふれたことを今でも覚えています。子どもたちからも「楽しかった」「またやりたい」「次はこんな劇がやりたい」など、前向きな声が多く聞かれ、実施して本当によかったと感じています。

来年度も劇という形になるかは分かりませんが、子どもたちが「参加してよかった」と思えるような題材づくりに励んでいきたいと思えます。

# チャレンジアートフェスティバルinつくば 作品展 茨城県立つくば美術館 2026.3.10-15



児童入所施設は、「四季」をテーマに、屏風を作成しました。  
子供たちが、春と言えば桜。ちょうちょ。夏は、青空、カブトムシ。  
秋は、積もった落ち葉に焼き芋。冬は、雪だるま。とたくさんのアイデア  
を出し合って作品を作りました。



障害者支援センター未来平沢事業所は、染料となる藍や玉ねぎを育てるところから取り組み、絞り染めのタオルを制作しました。絞り方によって一枚一枚異なる表情が生まれ、手仕事ならではの味わいが感じられる作品となりました。

また、四季をテーマに、糸・綿・紙などさまざまな素材を組み合わせ表現した作品も出展しました。近くで見ると、それぞれの素材の質感が生きており、細部まで楽しめる仕上がりです。

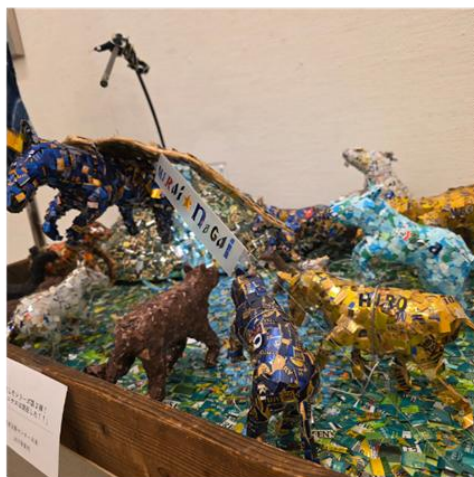
さらに、段ボールに思うまま自由に描いた作品も一点出展しました。のびのびとした表現が魅力の、個性あふれる作品です。



ほっとハウスは、リース・アイロンビーズ・絵画の3種類の作品を出展しました。

リースは、霞ヶ浦や学園内で採集した自然素材を使って制作したものです。アイロンビーズは、利用者さんが集中して取り組む姿が多く見られ、「やってみたい」という声も上がるほど人気の活動です。絵画については、昨年度からさまざまな利用者さんに描いていただいております。その中から一点を選び出展しました。

来年度は、さらに多くの利用者さんの作品を紹介できるよう、活動の幅を広げていきたいと思っております。



障害者支援センター未来永井事業所は、2班に分かれて活動し、それぞれの班で馬の制作に取り組みました。

制作の過程では、スタッフにとって思わず胸が熱くなるような場面がありました。普段は同じ作業を続けることが少し苦手な利用者さんが、今回はなんと時間いっぱい、空き缶のパーツ作りに集中して取り組み、最後までやり遂げてくれたのです。「もっとこうしたい」という意欲や集中力がぐっと高まり、長く関わっていても新しい一面を見せてくれる瞬間に出会えるのだと、改めて感じました。

こうした“新たな発見”に立ち会えることこそ、この仕事の醍醐味だと実感した活動となりました。

# 障害者支援センター未来 平沢事業所



ようやく寒さが和らぎ始め、作業をしている畑の脇にある梅の木は満開を迎えています。平沢事業所では玉ねぎの定植が終わり、次年度に向けた畑の準備に追われています。利用者さんが耕耘機を使って畑を耕してくれていますが、なかなか真っすぐ進まず悪戦苦闘している様子も見られました。それでも「自分で耕した」という達成感からか、皆さんの表情には笑顔が多く見られます。

一年が経つのは本当に早いもので、今年度も大きな怪我なく無事に活動を終わることができました。来年度は新たな挑戦にも取り組みたいと考えていますが、まずは利用者さん、職員ともに安全に、怪我なく過ごすことを第一に活動していきたいと思います。



## みんなで守り、 みんなで作る一日

2月24日、防災訓練及び調理レクを行いました。

防災訓練は、職員が震災を想定し、緊急地震速報を流し、利用者さんがテーブルの下に体を隠すところから始まり避難準備。点呼の際は一人一人名前を呼び大きく返事を返してくれました。無事安否確認を済ませ、次は調理レク。ミックスピザ、マーマレードピザ、未来特製サラダ、ミネストローネスープ、ヨモギ団子をみんなで協力し調理しました。ヨモギは前準備で利用者さんに協力してもらい一緒に積んできました。職員、利用者さんが美味しい料理を作るために一致団結。曇り空での行事でしたが、雨もなくほっこりとした行事になりました。



## 伝統の深さを感じる

新しい一年の幕開けに書き初めを行いました。

書き初めを楽しみにしていた利用者さんが、準備をしている職員の周りに集まってきました。

書き初めの導入では、その年の「歳神様」への祈願が込められた大切な習わしであることを伝えつつ、今年の干支は何だったかをみんなで考えたあと、早速書き始め開始です。見本を何度も見ながらゆっくりと筆を滑らせていきます。「ちょっと字が長かったかなあ。」と見本と比べっこしたり、何度も練習したことで「上手にかけた〜！」と嬉しそうです。精神を統一して机に向かうその姿は、なんとも凛々しく見えました。

日本の伝統の深さを肌で感じ、心静かに自分を整える貴重な時間となりました。



# 障害者支援センター未来 永井事業所



春の寒暖差は、暖かい日に慣れてしまうと少しの冷え込みでも身にしみます。それでも季節は確実に進んでいるようで、桜の枝先には大きな蕾がふくらみ、開花の準備が整ってきました。

さて、永井の活動ではチャレンジアート作品の制作がひと段落し、いよいよ春に向けた準備が始まっています。1班では、冬を越した作物がぐんぐん伸び始め、休ませていた畑の耕起作業に取りかかっています。2班はジャガイモの植え付け準備に加え、新たな農作物の計画を進めており、そのための畑の開墾作業に励んでいます。

今年はどんな作物が育つのか、どうぞ楽しみにお待ちください。



## 紅葉見に行こーよー！ 永井小町山登山

11月28日、永井事業所の小町山登山を実施しました。前日に少し雨が降ったため足元の不安もありましたが、当日は天候にも恵まれ、登山にはちょうど良い気温の中、事故や怪我もなく活動することができました。

頂上では少し冷たい風が吹いていましたが、澄んだ空気の中で眺める景色はとても美しく、参加者の皆さんも達成感に満ちた表情を見せていました。

朝日峠展望公園ではお弁当を食べ、集合写真を撮るなど、普段とは違う活動の中で気分転換にもつながり、利用者さんの新たな一面に気付く良い機会となりました。

今後も利用者さんと共にさまざまな活動に取り組み、一緒に成長しながら日々の業務にも活かしていきたいと思えます。



## 未来合同餅つき 未来一丸！“もち”つ持たれつ』

12月25日（木）、年末恒例の「餅つき」を永井・平沢事業所合同で開催しました。天気は曇りでしたが、元気な「よいしょー！」の掛け声が響き渡り、会場は一気に明るい雰囲気になりました。

2026年の健康と豊作を願い、皆で協力してついた餅は、つきたてをきな粉もちやお汁粉にして味わいました。昼食のほうとうに使ったかぼちゃ・大根・ネギなどの野菜は、各事業所で育てたものを持ち寄って調理しました。

自分たちで育てた野菜と、自分たちでついた餅と一緒に食べて「美味しい」を共有できるこの行事が、今年も無事に開催できたことをとても嬉しく思います。



## 児童入所施設

### 初詣

新年を迎え、みんなで近くの八幡神社へ参拝に出かけました。

境内では、学園とは違う厳かな雰囲気を感じながら、5円玉を賽銭箱に入れ、参拝経験のある子も初めてで少し戸惑う子も、それぞれの願いを胸に手を合わせてお祈りしました。

「今年も良い一年になりますように」

「健やかに大きくなりますように」

そんな思いが静かに広がる、穏やかな時間となりました。



### 園外活動

冬の園外活動として8グループに分かれて外出を行いました。各グループで「どこへ行きたいか」「何をしたいか」を話し合い、自分たちで計画を立てて出かけました。買い物をして好きなおもちゃを選んだり、好きなものを食べたり、水族館や遊園地に出かけたりと、それぞれ個性あふれる外出となりました。

水族館に行ったグループでは、イルカショーの前列に座って水しぶきを浴びるハプニングもあり、ボウリングに行ったグループでは、まさかの貸し切りで利用できず、急きょ別のボウリング場へ移動するという出来事もありました。トラブルも喜びも含め、思い出いっぱいの冬の園外活動となりました。



### 卒業式

小学部3名、中学部2名、高等部1名の計6名が卒業を迎えました。

その中で、小学部の卒業式では、筑峯学園を代表して「在校生の言葉」「卒業生の言葉」を担当した児童がいました。児童生徒会で選ばれ、みんなの代表として毎日練習を重ね、本番では堂々と登壇。丁寧に気持ちを込めて言葉を届けてくれました。(聞いていた職員は思わず大号泣でした)

来年度からは新たな環境で学びを深め、さらに成長していく姿を楽しみにしています。



# ほっとハウス

## 第51回衆議院議員総選挙

今回の衆議院議員総選挙は急遽決定され、投票日までの期間も短い選挙となりました。そのため、つくば市が含まれる茨城第6区の立候補者情報が公開され次第、各候補者や政党の公約を調べ、利用者の皆さんに分かりやすくするところから準備を始めました。しかし時間が限られていたため、情報の整理には苦労しました。

その後、利用者の皆さんと一緒に投票の方法を確認し、投票したい候補者や政党名を書く練習や自分で書けなくても意思を伝える練習も行いました。投票は混雑を避けるため期日前投票で、時間はかかりながらも、全員無事に投票を終えることができました。

今後も利用者の皆さんが自分の権利を適切に行使できるよう、このような機会には積極的に参加できる支援を続けていきます。

## 鬼もビックリ！いろいろな恵方巻

今年も恒例の節分行事を行いました。今回は恵方巻作りとお汁粉作りに挑戦し、みんなで楽しく美味しい時間を過ごしました。毎年取り組んでいることもあり、巻きすを使った巻き寿司作りはすっかりお手のもの。好きな具材をたっぷり入れた“極太巻き”や、こだわりの“具材一点集中巻き”など、個性豊かな恵方巻が完成しました。

食後には年男による豆まきも実施し、今年の厄を払い福を呼び込んで、皆の健康を祈願しました。日本の伝統行事に触れることで季節を感じられ、職員・利用者さんともに生活の充実につながる良い活動となりました。

## 地域連携推進会議を開催いたしました

3月12日(木) 10:30～12:00に地域連携推進会議を開催しました。

本会議は、日頃から温かく見守ってくださっている地域の皆様や関係機関の方々に、「ほっとハウス」の運営状況をご報告するとともに、地域との交流や連携をより一層深めることを目的として開催しているものです。

当日は、平沢地区の副区長様をはじめ、つくば市障害福祉課地域支援室の職員様、他法人のグループホームでサービス管理責任者を務められている方、そして保護者の皆様や実際の利用者様にもご出席いただき、施設と地域が共生していくための幅広い視点から貴重なご意見を交わすことができました。

会議では、日々の支援内容や安全管理体制について詳しくご報告させていただいた後、実際に事業所内をご見学いただきました。その後の意見交換の場では、見学を通しての感想や、利用者様が地域の中でより安心して暮らしていくためのアドバイスなど、活発で前向きな話し合いが行われました。

地域の皆様や関係機関の方々から直接いただいた温かいお言葉や貴重なご意見は、私ども職員にとって大変大きな励みとなっております。



## 相談日より

主任相談支援専門員  
武田真浩

# あなたの街の基幹相談支援センターは・・・？

少しずつ暖かくなり、春らしいすが感じられる季節となつてまいりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。花粉症の方にとってはつらい時期かと思えます。かくいう私も長年花粉症と付き合っており、いまだに程よい関係性を模索しているところです。

今回は、相談支援より「基幹相談支援センター」についてご紹介いたします。

基幹相談支援センターは、障害のある方やそのご家族が地域で安心して生活できるよう、総合的な相談支援を行う地域の拠点機関です。多様なニーズに対応する相談支援の中核的な役割を担い、市町村に設置されています。

障害福祉サービスの手続きや利用支援、権利擁護、虐待防止など、幅広い支援を提供しています。また、地域の相談支援体制の強化を図るため、関係機関との連携や相談支援専門員への助言・指導も行っています。

これまでも障害者総合支援法に基づき、市町村が設置すべき相談機関とされてきましたが、2024年4月からは設置が市町村の努力義務となりました。

### ■設置の目的

- ・ 地域生活を支える総合的・専門的な相談支援の実施
- ・ 地域の相談支援体制の強化
- ・ 地域移行・定着支援の促進
- ・ 成年後見制度利用支援事業など、権利擁護・虐待防止の取り組み

## ■主な役割

### ①総合的・専門的な相談支援

障害福祉サービスの内容や事業所情報の提供、利用に関する助言や申請援助、関係機関との調整、生活全般(お金の管理、交通機関の利用、趣味・余暇活動など)の相談、就労・医療・教育など専門機関の紹介や情報提供。

### ②権利擁護と虐待防止

成年後見制度に関する相談・利用支援、虐待防止のための相談受付や早期解決への取り組み。

### ③地域の相談支援体制の強化

他の相談支援事業所への助言・指導、困難ケースへのスーパーバイズ、保健・医療・福祉・教育など多分野との連携、連携会議の開催、相談支援専門員向け研修の実施。

## ■設置形態

設置主体は市町村であり、地域の実情に応じて以下の方法があります。

直営・市町村が直接設置・運営

委託・市町村が相談支援事業所へ運営を委託

さらに、単独市町村での設置、複数市町村による共同設置など、さまざまな形態があります。

## ■つくば市の基幹相談支援センター

つくば市では「直営」一部委託の形態をとっています。

直営：つくば市福祉部 障害者地域支援室

一部委託：市が委託する4事業所

- ・つくば市社会福祉協議会
- ・つくばライフサポートセンターみどりの
- ・サポートプラザつくば
- ・筑峯学園

以上の計5機関が連携し、基幹相談支援センターの役割を担っています。

なお、設置は努力義務であるため、まだ設置されていない市町村もあります。皆様がお住まいの地域ではどのような体制になっているのか、この機会にぜひ確認してみてください。





## 資源物回収



障害者支援センター未来平沢事業所では、2カ月に1回、平沢地区のご家庭を巡回し、資源物の回収を行っています。職員と利用者が車両に乗り、庭先に出していただいた新聞紙・段ボール・アルミ缶などを順番に集めていく活動です。

この取り組みは数十年前から続く、地域に根差した大切な活動です。顔なじみの方々とは「元気だった」「最近どう？」といった近況を交わすこともあり、地域の皆さまに支えられて続けてこられたのだと実感しています。同日には、集めた缶を利用者と職員が協力して潰す作業も行い、事業所全体で取り組んでいます。

地域の皆さまが長年にわたり温かく見守り、協力してくださっているおかげで、私たちは地域の一員として活動を続けることができます。

これからも「地域の中の法人」として、皆さまに親しんでいただける存在であり続けられるよう、この活動を大切にしていきたいと思えます。



## 給食だより ～学校ならぬ学園給食の世界～

津ぎょうざ歴史

暑さ寒さも彼岸までと申します。春の日差しも日に日に心地よくなってきますね。

今年度の給食で好評だったメニューを紹介いたします。

「マツコの知らない学校給食の世界」給食に人生を捧げた文京区の管理栄養士松丸さんのジャンボ揚げ餃子「津ギョーザ」です。私も松丸さんに感銘を受け、これはぜひ作ってみたいと思い実施しました。結果は大変好評で「また作って」とたくさんの声を頂きました。工程が多く大変ですが達成感も十分です。この気持ちを忘れず給食に向き合っていきたいと思っております。

直径15センチの皮を使った大きな揚げぎょうざ。

1985年ごろの小学校給食が発祥の津市が誇るご当地グルメで、現在も給食メニューの人気NO.1！現在までに約6万人以上の津市民に食べられています。

1985年ごろ、津市教育委員会の栄養士たちによって、子どもたちの栄養・満足感を考えて作られた給食用のメニューで、その日にひとつひとつ手作りで作られるため、給食調理員がぎょうざを包む手間も考慮し、直径15センチという特注の大きな皮を使ったことで、このインパクトあるぎょうざが誕生しました。

### 今後のイベント予定

#### わらび採り体験会inつくほうの森

自然豊かなつくぼの「つくほうの森」で、新鮮なわらびと一緒に探してみませんか？初めての方でも大丈夫！見つけ方や採り方のコツを丁寧に教えます。今年のわらび採りは、体力に合わせて選べる2つのコースをご用意しました！

ノーマルゾーン：5分ほどでサクッと移動！お手軽に楽しみたい方に。

ハードゾーン：15分ほどの山歩き！自然をじっくり満喫したい方に。

小さなお子様連れのご家族から、しっかり山歩きを楽しみたい方まで、どなたでも安心してご参加いただけます。さらに！わらび採りの後は、つくほうの森の里山風景を楽しみながら、お持ち込みいただいたお弁当を食べることもできます。春の休日に、みんなで楽しく自然とふれあいましょ！たくさんのご参加をお待ちしております。

開催日：4月12日（日）、19日（日）

時間：9:00 受付開始 / 12:00 解散予定

参加費：無料（※わらびは1袋/約1kg 500円で販売いたします。当日現金払いでお願いします。）

お申し込み方法（先着15名「程度」）：

QRコードのリンク（Googleフォーム）よりお申し込みください。

※締め切り：4月8日（水）まで



## 【伝統をつなぐ、手仕事のじかん】



先日、障害者支援センター未来平沢事業所では、筑波大学芸術系の宮原先生と学生さんたちをお招きし「つくばほうき作りワークショップ」を開催しました。

大穂地区の伝統工芸である「つくばほうき」@houki.tsukuba

実はこれまで、ワークショップで使うための稲わらを筑波学園から提供させていただく中で、田植えや稲刈りを通じた交流を深めてきました。

そして今回、ついに！私たちがほうき作りを体験する番がやってきました。

丁寧なご指導のもと、職員も利用者さんも夢中で作業。(職員一同、老眼と戦いながらワラの本数を数える工程はなかなかの修行でしたが…笑)無事に自分たちだけの「つくばほうき」を完成させることができました！

今後は「つくばほうき作りキット」と「つくほう米」のセット販売や、デザイン専攻の皆さんとの連携など、ワクワクする妄想(!)が膨らんでいます。

これからの展開に、どうぞご期待ください！

宮原先生、学生の皆さん、本当にありがとうございました。



## 後援会会員を募集 しています

日頃より筑峯学園に温かいお心遣いをいただき、深く感謝申し上げます。引き続き、皆様のご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。後援会会員の方には、広報誌を送らせていただきます。

年会費  
個人会員  
一口5,000円より  
法人会員  
一口10,000円より



## ご寄附について

様々な形でのご寄附を受け付けております。寄附金以外に、学習用品、画材、本、おもちゃ、衣類等、利用児・者の為に使用させていただきます。

ご支援をお願い申し上げます。  
寄附申し込みフォーム、お電話、メール等で受け付けております



## Instagram 始めました



TSUKUHOU\_GAKUEN

follow  
US!

筑峯学園の日々の様子を発信していきます。

つくほうだよりに関する皆様のご感想やご意見ご要望をお聞かせください



## 編集後記

3月には雪が舞う日もあり、寒暖差の厳しい時期が続きましたね。そんな中でも、園の周りでは梅が咲き、フキノトウが顔を出し、ウグイスのさえずりが聞こえてくるようになりました。少しずつ春が近づいていることを、自然がそっと教えてくれているようです。

これからは桜がほころび、わらびが芽吹き、季節はさらに彩りを増していきます。筑峯学園の周辺には、こうした自然の移ろいを身近に感じられる豊かさがあり、子どもたちと一緒に季節を探す時間は、私たち職員にとっても心が弾むひとときです。



社会福祉法人  
筑峯学園

発行日/令和8年3月  
発行所/社会福祉法人筑峯学園  
〒300-4213 茨城県つくば市平沢655-4  
MAIL sat@tsukuhou.or.jp  
WEBSITE <http://www.tsukuhou.or.jp>